



小牧営業所 営業所所長 **小向 誠**

小牧営業所所長である小向誠さんは、19歳の頃ドライバーとして南星キャリアックス株式会社に入社しました。営業所の合併など数々の変革を乗り越え、42歳で浜松から小牧営業所に異動。現在は管理者として奮闘しています。そんな小向さんに、仲間との絆や会社への思いについて、伺いました。

——どのような経緯で管理者になったのですか。

当時、杉本所長が後継の配車マンを探していて、私ともう1人のドライバーのどちらかが管理者になるという話でした。相手のドライバーとも、「どちらが管理者になってもお互いを支え合おう」と約束を交わし、結果27歳で私が管理者として選ばれました。相手は現在も浜松でドライバーとして支えてられています。所長も相手も、お互い腹を割って話ができる関係ですね。

30歳の頃、所長を任せられました。その頃は、職人気質の考え「これくらいできて当然だ」と偏ったものを見方をしていたため、人材がなかなか定着しませんでした。うまくいかに自分の未熟さを痛感していた時

期ですね。社内には、私と事務員の2人だけという時期もあり、全てを自分でやるしかない過酷な環境でした。

——人材不足で厳しい状況を、どのように乗り越えたのですか。

「絶対にぶれない」と誓い、気力と行動力で踏ん張っていました。ところが、32歳くらいの頃、転機がやってきました。ドライバーをやっていた相方が私を心配し、辞めた従業員を会社に連れ戻しに来てくれたのです。今思えばここで、運命の神が降臨したのです！

相手への感謝は今も忘れることはないですね。この事がきっかけで管理職も増え定着し、自分が動ける環境に変わるきっかけとなりました。この後は管理者、現業従業員を育てることが楽しくなり、やりがいを感じ、営業所を一緒に支えてもらっている事に、感謝をしていました。

この時期は、どのように人を教育し、定着させていくかを真剣に考えていました。

現在は、その頃の経験を活かし、社員とのコミュニケーションを大事にしています。添乗指導をすること

に飛び込みました。現在も、自分が経験した辛い状況を、部下には経験させたくないと考えながら運営しています。

——これまで最も自慢できる成果を教えてください。

浜松時代の成果は2つあります。ひとつは、社員同士がフオーローし合える体制を作ったこと。構内作業員は、同じ仕事に何年も取り組み、他が経験できる環境がありませんでした。そのため、病気や退職をした緊急時に替わりがないという状況です。こんな環境ではいけないと、構内作業員が他の部署も経験できるようにしました。今では取引先が違う作業員同士が、時には職場を交替り、営業所全体で問題共有し、協力体制が可能になりました。

もうひとつは、配車業務において若手にもベテランの仕事覚えさせる体制に変えたことです。これまで、ベテランと若手の仕事は差別化され、若手にベテランの仕事教育することはありませんでした。そこで、知識の共有化を図りました。管理者になってから2〜3年の間、取り組みました。現在はドライバー間

で先輩から新人へ知識の共有と、指導教育が当たり前となっています。

——最後に、今後の展望を教えてください。

過去に取り組んできた経験が、すべて小牧営業所でも通用するとは思っていません。裸一貫で挑戦していきます。

今後小牧営業所は、働き方改革(労働環境改善、労務管理)軸に健康的に長く働け、高齢者、女性、外国人隔たり無く、楽しくやりがいのある会社を目指し、皆で作る、築き上げていければと思っています。

小牧と浜松の営業所は、段ボール部門という共通点があるので、同業種の連携を強くさせ、強固な管理サポート体制を築くことが今後の目標です。そして、その他の営業所とも連携をとり、南星キャリアックスがより強い企業に成長できるように、社員一丸となって目標達成を目指します。

これからも小向さんはその前向きな姿勢で、南星キャリアックスにとっ必要不可欠な存在としてその成長を支えていくことでしょう。

——2つの営業所が合併する話を聞いた時、心境はいかがでしたか。

浜松営業所所長として売上も利益も軌道に乗ってきた頃、合併の話聞き、正直なところ「えっマジかよ」という気持ちになりました。

合併期間に色々な事柄もあり気持ちが落ちた頃、信頼する社長に相談すると、自分の話を親身になって聞いてくれました。私の気持ちを察して「いつでも話を聞くから」と声をかけてくれて、話を聞いてもらううちに、自然と自分の気持ちが前向きに変わっていくのがわかりました。本当にありがたかったですね。

そうして、社長のためにも踏ん張らねば。なんとか向き合っていたところ、自分を奮い立たせ、新たな環境

